今は昔　洞雲寺辺の様子

廿日市市郷土文化研究会　元会員　平田三也　さくらお 昭和60年11月1日 第23号

文政12年（1829）霜月（陰暦１１月）十一日夕七ツ時頃（午後四時頃）

今は昔、洞雲寺辺の様子

平田三也

「文政十二年霜月十一日夕七ツ時頃、佐伯郡廿日市近辺の老母、自分孫并びに近所の子供等五人引連れ、洞雲寺辺へ遊びに行きしに、六才なる孫見へず、あちらこちらと尋ねしに谷底へおとし一疋の狼喰居たるを見付け、老母矢庭にささへれば、老母に取りかかり噛み付き、余りの子供へ悉く疵付けしところへ、若者二人来かかり段々ささへしところ、この者を噛み殺し、それより廿日市の町へ出で、怪我人もあまた有り、家々に戸を卸しなどせしに、煙草切りの何がしといふ若者こまづらというものを持ち来り、かの狂ひ歩き狼に打ち立てしを見て、近辺の若もの手に手に槍、鎌、棒等持ち来たり、難なく殺し候由、翌日薬店の出売り嘉助という者、廿日市へ行き狼の死骸を見て帰り、直話に承る、この狼は牡にて、その夜牝来り、終夜鳴き明かせしとぞ、即死は六才小児、若者二人、老母はいまだ死せずとぞ、尤も日中危きよし、既人数を知らず」

この記事は近世風聞・耳の垢という本に出ていました。

因に著者は医師進藤伯寿、金指正三氏校注のものであることを記して謝す次第です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

廿日市の句碑6

大鳴敦子

〃植樹の根やすらかにあり卒業歌〃

廿日市高等学校は大正四年佐伯郡立工業徒弟学校として開校、昭和二十二年普通高校となり夜間部も併設されている。その開校五十周年記念事業として中庭に石の庭を作り植樹をすることになった。

当時、同校美術科教師であった杉山赤富士先生に依頼して句を考えてもらい、銅板を石に取り付け昭和三十五年三月一日卒業式当日除幕された。資金はその年の卒業生